# 変　奏　曲　の　創　作

40期

## Ⅰ　テーマ設定理由

変奏曲は、国語辞典では「ある主題を基にして、その旋律などをさまざまに変化させて作った楽曲」と説明されている。又、楽典を調べると、変奏曲は大きく３つの種類にわけられると書いてあった。その３つとは「音型変奏」「性格変奏」「その他、シャコンヌやパッサカリア等」である。私が今までに演奏してきた曲は、すべて音型変奏といわれる曲であった。音型変奏とは、律動的、旋律的、和声的、対位法的に形をかえていくもので、主題の骨組みは変化しない古典派までの変奏曲のことである。これらの曲を何曲もひいていて、以前から、変奏の仕方に何か共通点があるのではないかと思っていた。そこで今回は、今までにひいてきた変奏曲をとりあげ、それらを分析し、その結果から、自分で実際に変奏曲を作ってみようと思った。

## Ⅱ　研究方法

① 具体的に参考とする変奏曲を選び、どのように変奏されているかを分析する。
② 共通する変奏の仕方を、いくつかの基本的パターンに整理する。
③ 自分で作曲する時に、主題部に使う曲を選択する。
④ ②を参考にして曲の構想を練り、③を使って実際に変奏曲を作る。

★ ①でとりあげた変奏曲

『主題と変奏』（J.Haydn）
『きらきら星の主題による変奏』（W.A.Mozart）
『デュポールのメヌエットによる９つの変奏』（W.A.Mozart）
『ソナタＫ NO 331.第１楽章』（W.A.Mozart）
『パイジェロの歌劇より「美しき水車小屋の娘」による９つの変奏』（L.van Beethoven）
『パイジェロの歌劇より「美しき水車小屋の娘」「歓び我を見捨てぬ」の主題による６つの変奏』（L.van Beethoven）
『アンダンテとヴァリエーション』（K.M.F.von Weber）

★ ③で自作曲の主題として選んだ曲

『ハイブル作のバレエ「邪魔された結婚」の中の「ビガーノ風メヌエット」による１２の変奏曲』（L.van Beethoven）

## Ⅲ　研究内容

まず、上に挙げた７曲の各々のバリエーションについて次のように分析し、表にまとめた。

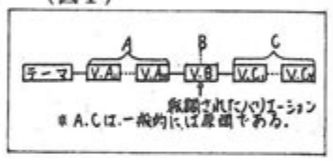
（表１）

分析例　『パイジェロの歌劇『水車小屋の娘』「歌び我を見捨てぬ」の主題による6つの変奏曲』（L.van Beethoven）

| | ①調子 | ②拍子 | ③小節数 | ④速度 | ⑤形式 | ⑥曲のかんじ | ⑦変奏の方法・要素 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| テーマ | ト長調 | 6/8 | 20小節 | Andantino | A－B－A′（三部形式） | ・かわいらしい | |
| バリエーション1 | ト長調 | 6/8 | 20小節 | Andantino | A－B－A′（三部形式） | ・軽快で、はずれのよいかんじ。 | ・右手の16分音符による音型変奏　・左手は音型をリズムをとり、ベースを出している。旋律は分散和音に行っている。 |
| バリエーション2 | ト長調 | 6/8 | 20小節 | Andantino | A－B－A′（三部形式） | ・力強くはずれのよいかんじ。 | ・左手の16分音符による音型変奏（バリエーション1の右手とよく似た形）・右手は音型、和音によるメロディー。 |
| バリエーション3 | ト長調 | 6/8 | 20小節 | Andantino | A－B－A′（三部形式） | ・軽くかわいくてはずれがよい。 | ・両手の断片的、分散和音的なかけ合いを基本とした変奏。バリエーション1、2の要素を含む。 |
| バリエーション4 | ト短調（同主調） | 6/8 | 20小節 | Andantino | A－B－A′（三部形式） | ・ゆったりとしていて、もの悲しいかんじ。 | ・同主調に転調したことも基本とする変奏・・左右が二声にわかれている。・和音や音型が主に扱われている　・最後は、かなりした終止動。 |
| バリエーション5 | ト長調 | 6/8 | 20小節 | Andantino | A－B－A′（三部形式） | ・かわいらしく、やさしい。軽快で楽。 | ・左手のメロディーと、右手の律動音を基本とする変奏　・左は二重奏で対話も楽し、右手は装飾的な装飾のパッセージを奏する。・最後はPで軽く終わる。 |
| バリエーション6 | ト長調 | 6/8 | 47小節（コーダ27小節） | Andantino | A－B－A′－コーダ（三部形式） | ・華やかで、力強いかんじ。 | ・両手の分散オクターブ、分散和音によるもりあげ。・洗練された細かい16分音符と、音量、音域の広さによってもりあげられている。コーダでは、オクターブによるメロディーが再現されている。 |

分析の結果、バリエーション部の中央付近に、必ず同主調に転調されたバリエーション（テーマが長調ならば、短調になっている）がおかれていることに気付いた。この部分が存在するため、バリエーション部は、一般的に次のような３つの部分(A･B･C) にわけられている。（図１）これを確認するため、表１の「⑥曲のかんじ」と「⑦変奏の方法・要素」についてA,B,C ごとに調べた。

（図１）

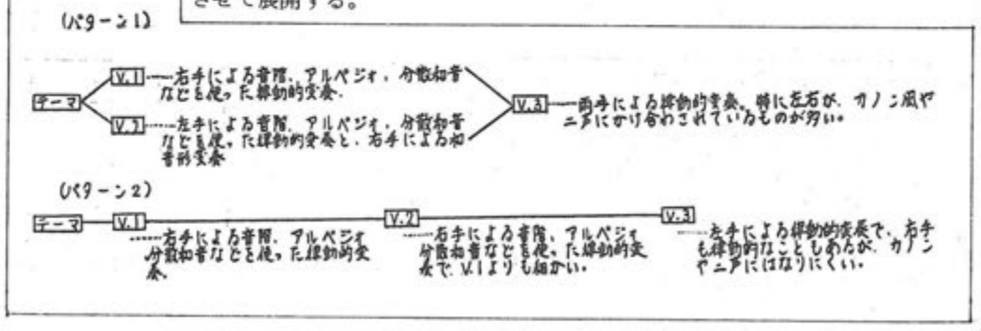



〈Ａ部分に見られる変奏の方法〉

Ａ部分で共通して用いられている主な方法は、音階、アルペジオ、分散和音などを使った律動的変奏である。Ａ部分に属するバリエーションの関連性としては、図２のような２つのパターンがあった。特に、パターン１は属する曲も多く、基本的パターンというのにふさわしい。V.3(Ｖ＝バリエーションの略）は、V.1, V.2のいずれの方法的要素をも断片的に含んでいる。曲想面では、V.1 は軽快でかわいらしいもの、V.2 は力強くきっぱりしているもの、V.3 は歯切れよく快活なもの、という組み合わせが最も多かった。このことからV.3 は、曲想面でも、V.1 やV.2 の要素を含んでいるといえる。このようにＡ部分は、V.1 とV.2 の総合的要素を含むV.3 によって、しめくくられているといえる。

これに対してパターンⅡは、いくつものバリエーションの方法的要素を連続させて展開する。

図２






〈Ｂ部分に見られる変奏方法〉

Ｂ部分とは、同主調に転調されたバリエーションであった。共通する変奏方法は、転調することによって曲想を変化させるものである。Ｂ部分の曲想には２つのパターンがある。前者は、ゆったりしていてゆううつで、少し重いかんじのするもの、後者は、ゆったりしていて柔らかいが、軽いかんじのものである。これらの２つの違いは、Ａ部分の曲想面の影響をうけているかどうか、ということになるのだが、Ａ部分の影響をうけていない前者の方が一般的であった。

一般にＢ部分は、軽快なＡ部分と対照的に、ゆううつでゆったりとしたかんじを出している。つまり、Ｂ部分はＡ部分とは全くちがい、つながりはない。又、Ｃ部分ともつながっておらず、Ａ部分とＣ部分の中間的位置にあって、各々をつなぐ橋のような役わりを果たしている。

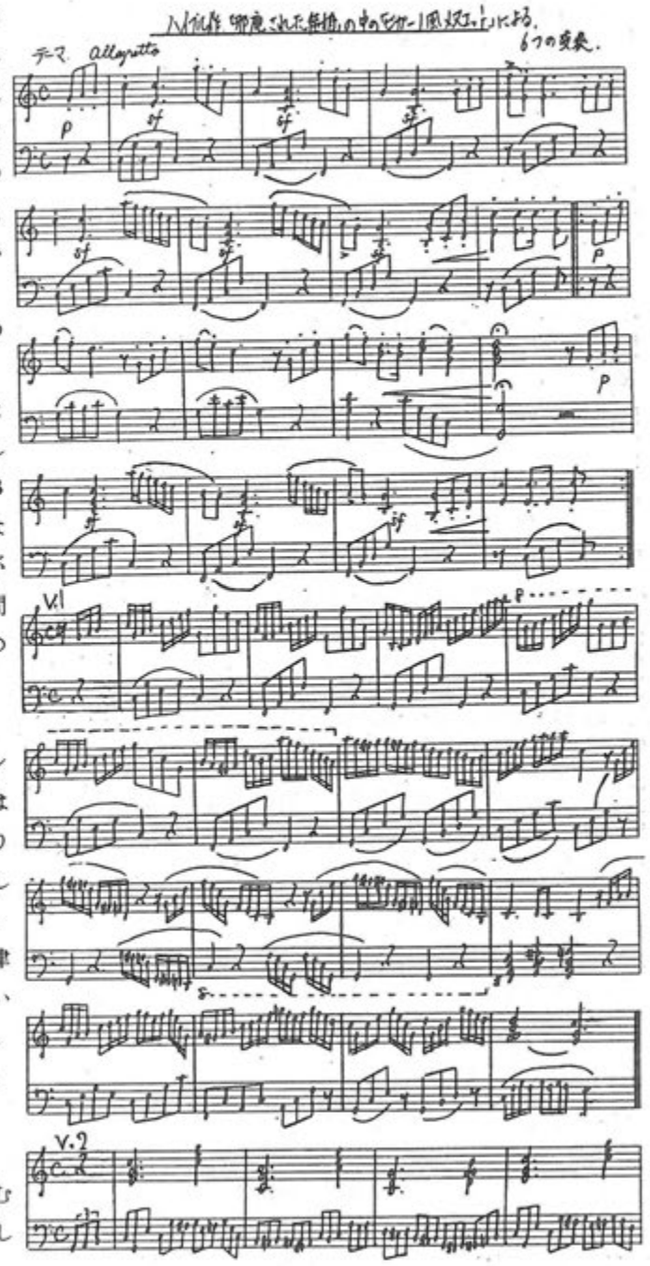
〈Ｃ部分に見られる変奏方法〉

Ｃ部分は、いくつかのバリエーションから成っているが、基本的には最後のバリエーションに大きなもりあげをもってきて、変奏曲全体をしめくくるという役割をもっている。だから最後のバリエーションは、律動的、和音的変奏の総合となっていて、その中でも特にオクターブや、分散和音などがよく使われている。もりあげる場所については、

①はじめから華やかに入るもの

②だんだんもりあがって頂点をむかえ、コーダ（終曲の付けたし部分）で静まるもの

③だんだんもりあがって、さらに

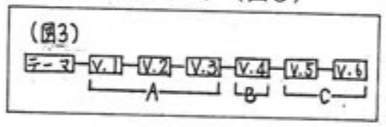


コーダで頂点となるもの

という３つのパターンがある。したがって、最後のバリエーションの１つ前のバリエーションは、最後のもりあげを大きくし、効果を出すための工夫がされている。その曲想は、軽快であるか、ゆったりしているか、どちらかの場合が多く、クライマックスをもつ最後のバリエーションと対照的である。この１つ前のバリエーションの最後の終わり方は、最後のバリエーションのもりあがりの場所（①〜③）によってちがう。①の場合は、小さく静かにおわるが、②③の場合は、小さくならないままのものが多い。つまり、１つ前のバリエーションは最後のもりあげを含むバリエーションと対照的要素を持ち、もりあげへの導入口となっていると同時に、Ｂ部分ともつなぐ役割を果たしている。

以上のような考察から、バリエーション６つからなる変奏曲が、考察結果を満たしていて、最も基本的ではないかと思った。（図３）

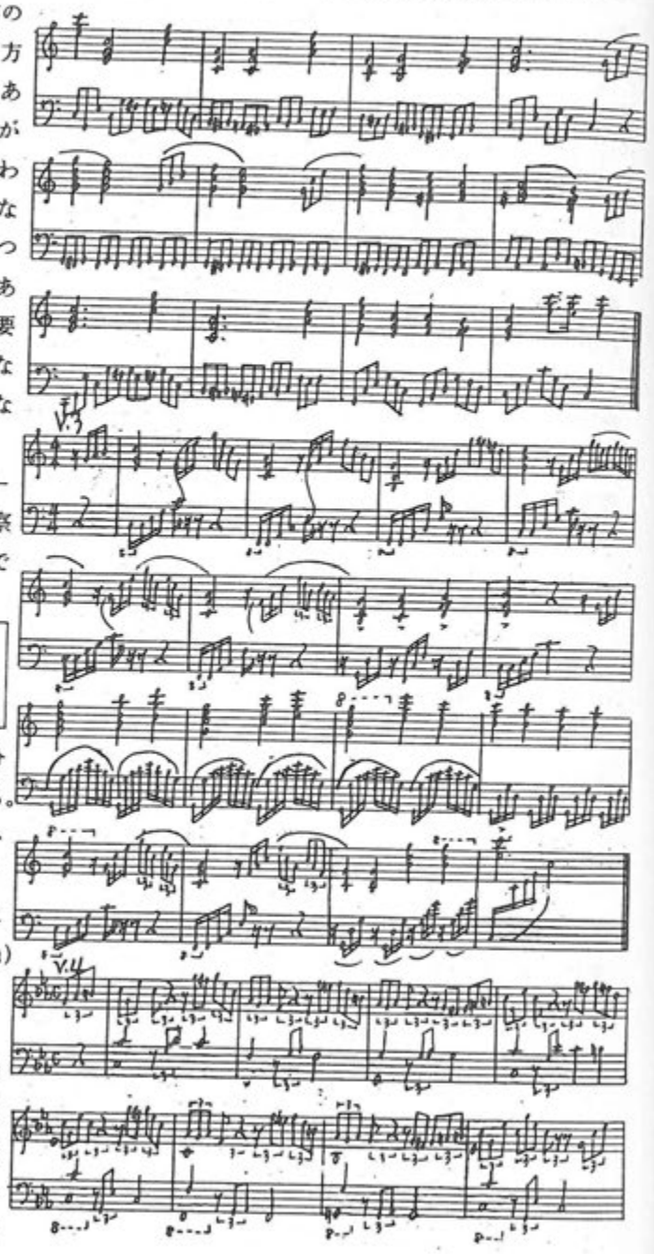
（図3）




このようなことをふまえて、自分で作曲したのが右の楽譜の曲である。作曲のテーマとして作ったのは『ハイブル作バレエ「邪魔された結婚」の中の「ビガーノ風メヌエット」による12の変奏曲』(L.van Beethoven)のテーマ部分である。

〈自作曲の構成〉

この曲は一応、音型変奏の基本的パターンに基づいて作ったため、調子、拍子、小節数、演奏速度、形式については原則として主題の骨組みをうけつがせた。ここでは、曲のかんじと、変奏の方法・要素の面でのことに重点をおいてまとめる。




＊テーマ‥‥ハ長調、4/4 拍子、16小節、Allegret、二部形式、という最も標準的な要素をもつ曲で、かわいらしく、シンプルなかんじ。

＊バリエーション１‥‥右手の16分音符による音階進行を基とする変奏方法を使い、左手は、８分音符による分散和音で、伴奏とした。軽快なかんじ。

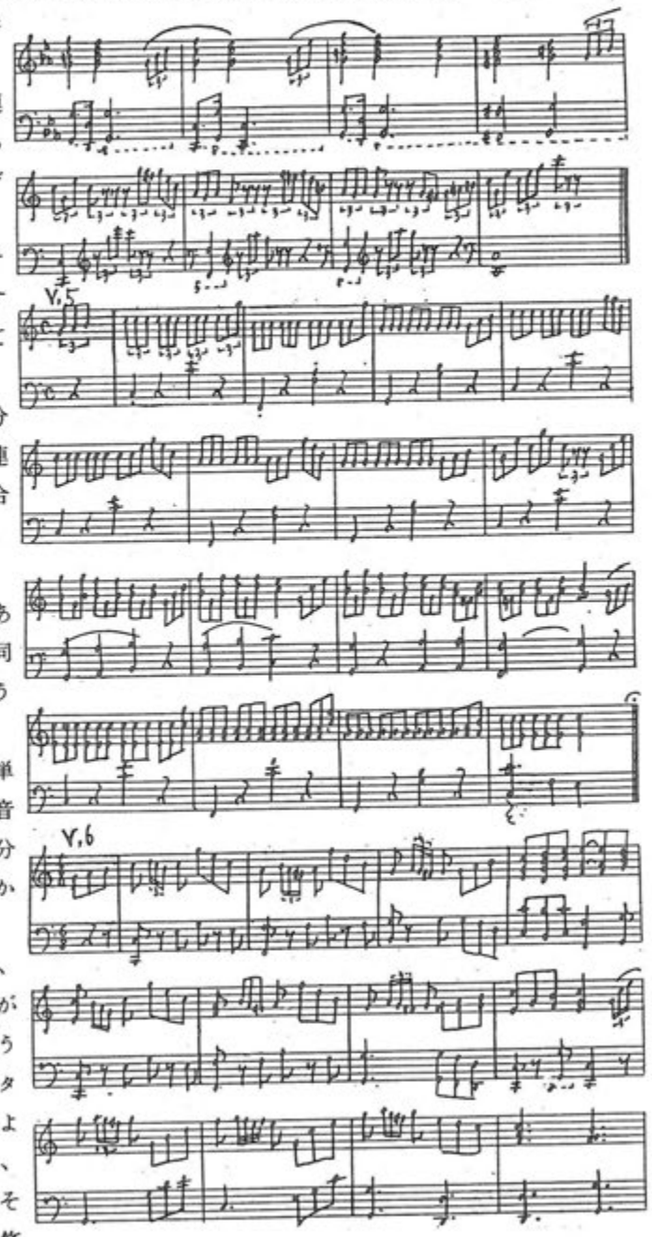
＊バリエーション２‥‥左手の３連符による音階的進行を基とする変奏。これに、テーマのメロディーを断片的に含ませた。又、右手は、和音的変奏により、テーマのメロディーラインを奏する。力強く、明快で堂々としている。

＊バリエーション３‥‥左手の16分音符と、右手の８分音符、３連符を基本とする変奏で、かけ合いの形にした。はぎれがよく、快活である。

＊バリエーション４‥‥Ｂ部分にあたるバリエーションなので、同主調のハ短調に転調した。ゆうつな重いかんじ。

＊バリエーション５‥‥右手よる単音、和音の連打を基にした和音的変奏。左手はゆっくりした分散和音。軽く、かわいらしいかんじ。

＊バリエーション６‥‥はじめは、軽快に入り、だんだんもりあがって、コーダで静まる、というパターンにした。左手のオクターブと、右手の短い修飾音によりもりあげている。コーダは、左手でテーマのメロディーをそのまま再現し、右手は細かい修飾音で、しだいに音域をあげて



いって、消えるように終わる。

全体的に、快活で堂々としている。変奏方法の面でも、曲想の面でも、バリエーション１から５までの総合的要素を含むようにした。

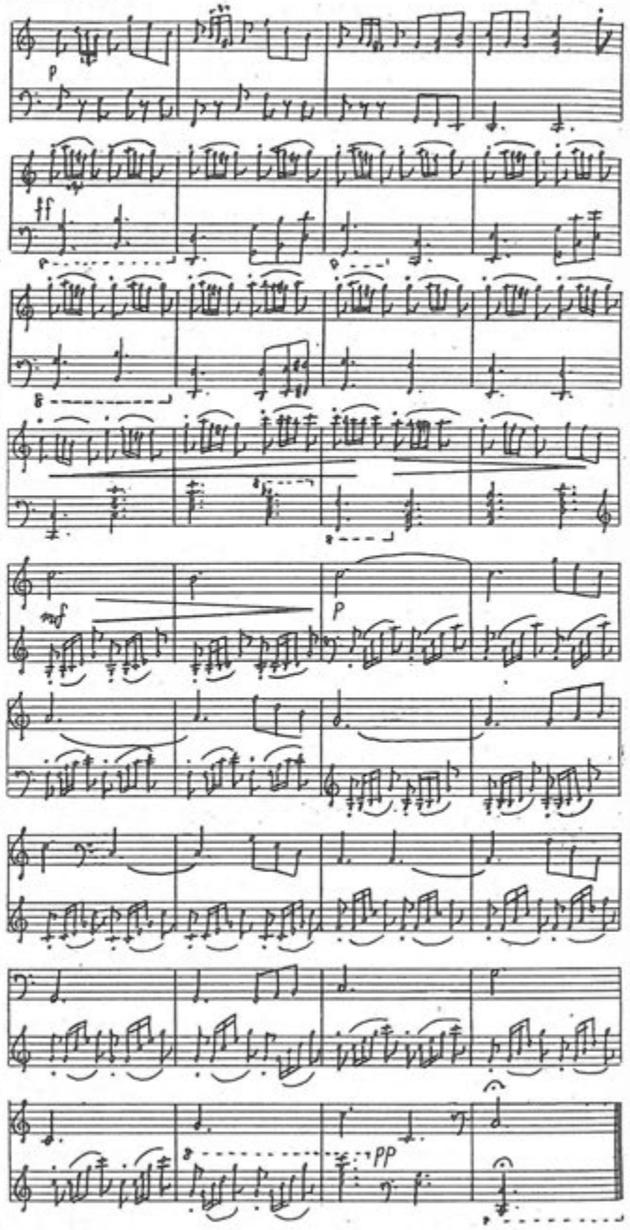
## Ⅳ 結　論

楽譜参照のこと。

## Ⅴ 感　想

夏休み後半に少しつめこみすぎたような気もするが、この曲が完成して本当によかったと思う。

今回の研究であつかった変奏曲はどれもバリエーションの数が１２個以下、という比較的小さなものであった。バリエーションの数が多くなるにつれて、「基本のパターン」も少しずつかわっていくと思う。だから、今回の研究は「音型変奏曲全体」について説明するには、少し不足な部分もあると思う。この点の究明も課題である。

又、はじめにふれた、音型変奏以外の変奏曲、これらの世界はどうなっているのだろうか‥‥？またの機会に研究してもおもしろいと思う。

自作曲についてだが、はじめの部分の拍子感が統一できなかったのが残念だった。又、機会があれば、曲なども作っていきたいと思う。